

Title	懐徳 第55号 彙報 / 奥付
Author(s)	
Citation	懐徳. 1986, 55, p. 87-90
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90669
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

彙報

(記念会)

事業報告

。懷徳堂展開催

昭和六十一年三月十一日より四月十七日まで、大阪市立博物館特別展「懷徳堂―近世大阪の学校」が開催された。同展は大阪市立博物館、財団法人懷徳堂記念会ならびに懷徳堂・友の会が主催、大阪大学が後援した。期間中の入館者数は一一五一人であった。

。昭和六十一年春季講座

大阪大学文学部ならびに大阪府立文化情報センターとの共催で、同センターを会場に、五月二十六日(月)より三十一日(土)まで開催。月々金は午後六時半、土は午後二時半より、各日二時間の講演が行なわれた。日本学の諸相を新しい視点から眺めたもので、各日共、多くの聴講者を集め、大変好評であった。また、最終日は二人の留学生による講演という新しい試みもなされた。

〈日本学の新しい地平〉

日本文化起源論と考古学

篤胤論―宣長の日本像の再検討―
遊びと日本社会

大阪大学 都出比呂志
大阪大学 子安 宣邦
大阪大学 井上 俊

江戸時代兵学と現代

龍宮童子考―異人論の視座―

外国人による日本語への視座

神戸大学 野口 武彦
大阪大学 小松 和彦
大阪大学留学生 マラシー・セリンニコリン

劉 建華

。昭和六十一年秋季講座

大阪大学文学部・大阪府立文化情報センターと共催。十月二十日(月)より二十五日(土)まで同センターにて開催された。統一テーマとして初めて西洋学を取り上げた。時代・対象が広範囲にわたっていたため、連日通しの聴講者はいつもより少なかつたが、半面、好みの一日だけを指定した人が多く、それだけに真摯な聴講風景が見られた。

〈西洋の歴史と文化〉

トロイア戦争とその原因

中世末期の宗教劇

ジョン・ロックの寛容論について

フランスの歴史と文学―古典主義時代を中心に―

ドビュッシーと海

ドイツの統一と明治維新

大阪大学 松本 仁助
大阪大学 江川 温
大阪大学 塚崎 智
大阪大学 赤木 昭三
大阪大学 谷村 晃
大阪大学 岡部 健彦

役員動静

。昭和六十一年二月二十日、本間道雄幹事退任。後任として梅田治住友銀行秘書室長、二月二十一日付で幹事就任。

。昭和六十一年三月三十一日、黒田俊雄理事、佐野喬幹事退

任。

。昭和六十一年四月一日、熊谷信昭大阪大学総長、当津武彦大阪大学文学部長、理事に就任。黒田俊雄、子安宣邦、山村雄一の三氏、評議員に就任。上中国夫大阪大学文学部事務長、幹事に就任。

。森三樹三郎評議員、昭和六十一年八月二十九日逝去。

会務報告

。昭和六十一年四月十八日、懷徳堂記念理事会評議員会を住友銀行本店会議室にて開催。堀田庄三理事長の司会のもと、次の案件について審議が行なわれ、いずれも原案通り承認された。

昭和六十年年度事業報告並びに決算について

役員人事について(理事二名の交替、評議員三名の新任、幹事二名の交替について)

昭和六十一年度事業計画並びに予算案について

なお、出席は堀田庄三、上野淳一、黒田俊雄、当津武彦、弘世現、松下幸之助(代理)、宮本又次、片山良展、加地伸行、子安宣邦、信多純一、脇田修、上中国夫、梅田治の計十四名であった。

(友の会)

事業報告

。懷徳堂展開催

昭和六十一年三月十一日より四月十七日まで、大阪市立博物館で開催された「懷徳堂—近世大阪の学校」展を、同館ならびに財団法人懷徳堂記念会と共に主催。開幕に先立ち、三月十日、友の会主催の記念祝賀会が行なわれ、堀田庄三記念会理事長、弘世現友の会会長等約七十名の出席があった。

。懷徳忌(第三回)

昭和六十一年三月三十日、誓願寺(大阪市南区上本町)にて開催。午後二時より本堂で山中昌弘任職によって法要が営まれ、弘世会長代理の大村元有評議員が代表焼香を行なった。三時より講演。「展覧会から見た懷徳堂」大阪市立博物館・上田稜氏。二十五名参加。

。懷徳堂・友の会だより

第九号は昭和六十一年一月、第十号(特別号)は同二月、第十一号は同四月、第十二号は同九月に発行。

。懷徳堂古典講座(古典を読む会)

昭和六十一年には次の各コースが好文倶楽部会議室(大阪市北区梅田)を会場として開催された。毎回、午後六時より七時半まで。受講料は各コース各期毎に三千円(会員外四千円)。

「中国文化(漢文入門)」四月七日・同十四日・同二十一日・同二十八日・五月十二日・同十九日。講師は加地伸行・岸田知子・湯浅邦弘の三氏。聴講者九十名。

「孔子と論語」(前期)六月二日・七月七日・八月四日・九月一日・十月六日。(後期)十一月四日・十二月一日。(引き続き六十二年一月五日・二月二日・三月二日に実施の予

定。)講師は加地伸行氏と岸田知子氏。聴講者、前期は六十六名、後期は四十五名。

「江戸の思想を読む―仁斎と徂徠」(前期)六月四日・七月二日・八月六日・九月三日・十月一日。(後期)十一月五日・十二月三日。(引き続き六十二年一月七日・二月四日・三月四日に実施の予定。)講師は子安宣邦氏と藤本雅彦氏。聴講者、前期は二十六名、後期は二十一名。

「唐詩の話」六月九日・七月十四日・八月十一日・九月八日・十月十三日。「宋詞の話」十一月十日・十二月八日。(引き続き六十二年一月十二日・二月九日・三月九日に実施の予定。)いずれも講師は黒川洋一氏(八月十一日のみ山内春夫氏)。聴講者、「唐詩」は五十八名、「宋詞」は四十八名。

「十八史略」(前期)六月十六日・七月二十一日・八月十八日・九月十六日・十月二十日。(後期)十一月十七日・十二月十五日。(引き続き六十二年一月十九日・二月十六日・三月十六日に実施の予定。)講師、前期は加地伸行氏と湯浅邦弘氏。後期は岸田知子氏と塩出雅氏。聴講者、前期は六十三名、後期は四十七名。

「釈迦の伝記―太子瑞応本起経」(前期)六月二十三日・七月二十八日・八月二十五日・九月二十二日・十月二十七日。(後期)十一月二十五日・十二月二十二日。(引き続き六十二年一月二十六日・二月二十三日・三月二十三日に実施の予定。)講師は荒牧典俊氏。聴講者、前期三十六名、後期は十七名。

。資料収集

逆瀬家旧蔵近世学芸家筆跡 計三十八件五十九点。

中井蕉園筆「織錦体新様雜詩屏風」「貼交屏風」計二点。

。見学会

第五回、昭和六十一年三月二十二日、午後一時より四時半まで、大阪市立博物館において「懷徳堂展」を見学。二時より同館講堂で記念講演「大阪の学問復興と懷徳堂」(講師は梅溪昇氏)を聴講。三時半より上田稷氏の解説で列品観覧。参加四十三名。

第六回、十一月二十三日、午後一時より五時まで、夕陽丘から浮瀬、愛染堂、茶臼山から阿倍野橋方面を歴史散歩。講師は矢内昭氏。参加三十三名。

。遺跡保存事業

誓願寺墓地内の中井贅庵、中井竹山、中井履軒の墓碑修復着工。なお、この事業実施に際しての募金に、法人・個人会員有志の協力があつた。

役員動靜

。昭和六十一年四月一日、黒田俊雄副会長(運営委員長を兼ねる)退任に伴ない、当津武彦氏、副会長(同)に就任。高岡研一協議員退任に伴ない、稲野治兵衛氏、協議員に就任。佐野喬運営委員退任に伴ない、上中国夫氏、運営委員に就任。五月一日、茅野良男協議員退任に伴ない、徳永恂氏、協議員に就任。

。八月一日、石井久夫協議員退任に伴ない、十文字孝夫氏、協議員に就任。

。九月一日、倉林育四郎協議員退任に伴ない、梅本純正氏、協議員に就任。

会務報告

。三月十日、運営委員会を今橋クラブ会議室にて開催。
。四月十八日、協議会・監事会を住友銀行本店会議室で開催。
弘世会長を議長として、次の事項について審議を行ない、いずれも原案通り承認された。

役員人事について（「役員の選任方法についての申し合せ」について、及び役員の改選案について）

昭和六十年年度事業報告並びに決算について

昭和六十一年度事業計画並びに予算案について

新収資料の報告と大阪大学への寄贈について

なお、出席は弘世現会長、黒田俊雄前副会長、当津武彦新副会長のほか、上野淳一、大久保昌一、熊谷信昭、鈴木敬、宮木又次、山下俊彦（代理）の協議員九名、川勝堅二（代理）、小松康（代理）の監事二名の計十一名。運営委員七名および堀田庄三懷徳堂記念会理事長が陪席した。（岸田記）

昭和六十一年十二月二十五日発行

懷徳 第五五号

560 豊中市待兼山町一―一 大阪大学文学部内

編集 懷徳堂記念会
発行 懷徳堂記念会

編集責任者・当津武彦

600 京都市下京区中堂寺鐘田町二

印刷 株式会社印刷同朋舎